

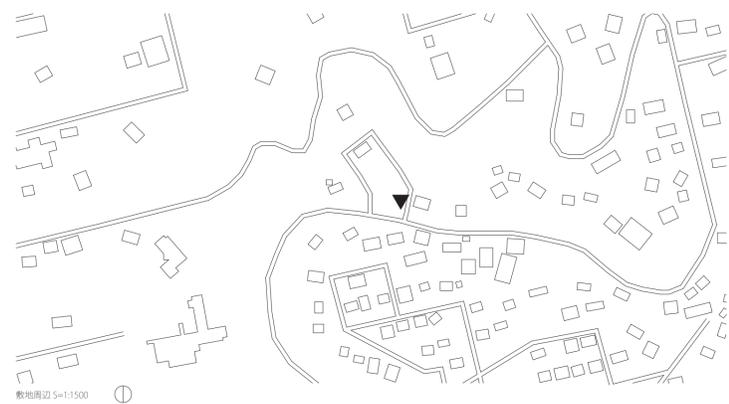


『大自然に呼応する建築』とは大自然の変化を楽しむことではないかと思う。

人は日常生活の中で、その自然に対応するように生活をしている。特に、ファッションはその季節や場面によって変化する。たとえば、夏は暑いので薄着になり、冬は寒いので厚着になる。ヘアスタイルも同様に状況によって変化する。

そこでファッションのように常に変化するような可能性を持った週末住宅を考える。そしてその週末住宅の間仕切りはすべてなくし、代わりに布を用いる。

敷地は別荘などが多く点在する長野県の中軽井沢の千ヶ滝西区とする。



布と影と光



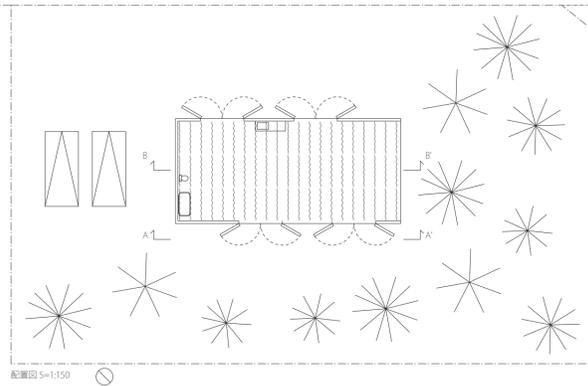
使用する布はベンファインデシン。

超極細糸使いの裏地で、高級感のある色調、光沢がある。高級裏地やウェディング・ドレスの裏地などに使われる。



布とシルエット
南側は一面のガラス張りになっているので、その布には外の植物のシルエットが映し出される。そのシルエットは太陽の高度や向き、また天気によって左右されながら映し出される。その映し出されたものは1度きりである。

布と光
布は建築の中でも使われていて、その代表はカーテンである。しかし、カーテンは2次元の動きで光を扱う。そこでカーテンのような布が3次元の動きをしながら光を遮るのはいかがかと考えた。またその布によって境界ができる。そこで布を650mmピッチで家の中に垂れ下げた。そしてその端を使うときは布を手繰りよせて空間をつくらなければならない。そのつくり方は主に天気によって左右されるであろう。暑いときは日差しを遮るように、寒いときは届くようにするだろう。よってこの家の水まわり以外は常に自分で場を探し続けなければならない。天井が高いのは布を手繰り寄せせるだけの長さが必要だからである。その高さは約8mとしている。



A-A' 立面図、B-B' 断面図 S=1:150

